大切なのは

世界を広げること！

靴職人

三澤　則行さん

（みさわ　のりゆき）

靴職人である三澤則行さんの元を尋ねて、靴職人になるきっかけ、ビスポーク靴作り、靴職人のやりがいをお聞きしました。

靴職人になったきっかけ

幼い頃から物作りが好きで、地元の靴屋を通る時、とてもいいなぁと思っていました。靴が飾られている所を見るのがとても好きでした。
大学の時、自分はなにが好きなのか、将来はなにをやりたいか、どんな仕事が自分に向いているのか、それを真剣に考えても分からない時期が続きました。考えた結果、幼い頃から物作りが好きだったということを思い出しました。それを頻繁に通う靴屋の店主に話をしたところ、「じゃぁ、靴を作ったらどう？」と言われました。それで靴職人になりたいと思いました。

東京とヨーロッパのウィーンで 10 年間修行

最初に東京で 3、4 年間修行したのですが、自分の現状に不安を感じ、経済面でも困り、このような生活をこの先も続けられるかと心配になりました。そうような状態の中、「若い人が頑張っているよ」という主旨の取材を受けたり、友人や親から修行中に製作した靴を褒めてもらったりすることで、モチベーションが上がり、靴作りを続けていくことができました。
その後、昔ながらの純粋で完全な手作りの製法が残っているウィーンの靴工房に行き、修行を続けました。芸術家のアトリエや美術館をたくさん見て回り、数多くの作品を見るところで、自分は芸術家として、新しい作品や独自の表現で靴を作る人になりたいと再確認できました。

日本に帰国した後

日本に帰国して自身の工房を持ったのが 2011 年。現在まで 8 年経っています。
ウィーンにいる頃、自分はこのような作品を作りたい、このようなことがしたいと考えたこと

があるのですが、実際にやると違うということに気づきました。新しい作品を作ろうと思ったけれどできなかったです。自分の能力の限界を知り、とても悩みました。しかし、そこであきらめずに、いつも以上の時間をかけて徹底的に悩みました。それで、いままで自分が限界だと思ったこともあきらめずに、徹底的に自分を追い込めば、思う以上にいい作品が作れるのだと分かりました。
工房を持ってからの 8 年間、オーダーメードのビスポーク靴を作り、アート靴も製作して、その作品を展示してきました。さらに、アメリカ・シンガポールの大学で講義をしたりと海外での活動も数多くあって、また、東京では靴作りの教室も開いています。

ビスポーク靴……最大の特徴は

世界最高級の牛革を使用しています

＊100 年」以上も昔の古典的製法を使用して、すべて手作業で製作しています。
現在、この製法は世界でも一部の限られた注文靴店でしか見ることができません

三澤さんのアート作品👏

＊記事背景の写真は 2010 年三澤さんが修行中にドイツで受賞した作品です

どんな方が三澤さんの元にいらっしゃって、オーダーメードの靴を注文しますか？

裕福かどうかに関わらず、年齢問わず靴好きな人です。もちろんそれなりに裕福な人の方が多いです。もしかすると、テレビで見る人の靴も僕が作ったものかもしれませんよ。

特別なこだわりや要求を持つお客様はいらっしゃいましたか？

お客様は僕の特徴的なデザインを求めているので、デザインに対する特別な要求はあまりありません。ただし、履き心地に関しては、神経質な人もいれば、それほど気にしない人もいます。靴が完成してお客様に初めて履いていただく時の履き心地はベストな状態ではありません。板の上に足を乗せているような感覚です。どんどん馴染んで少し形が変形していくと、とても履き心地が良くなります。自分は半年から一年後を想定して作っています。最初から軟らかい靴は長く持ちません。一生履いていただくには、それなりにしっかりとしたものを作るので、最初は履きにくいです。なので、最初から履きやすさを求めるお客様には、この点をよく説明するようにしています。

オーダーメード靴やアート作品を製作している中、どうして人に教えようと思ったのですか？

一番の理由は教えることが好きだから。靴作りが全く出来ない素人の人が、自分の教えによって靴を作れるようになって、作った靴を履いて、本人が喜ぶところを見ることは、本当に楽しいですね。
さらに、靴作りの仲間が増えていくのがとても嬉しいです。自分の生徒とより深いコミュニケーションが取れて、仲良くなれます。仲良くなるところからどんどん自分の世界が広がっていきます。シンガポール・アメリカ・韓国・イギリスに行くのは全部生徒繋がりです。生徒がいるので、その国に興味を持ちその国のことを教えてもらって自分の世界が広がっていくのがとても楽しいです。

靴職人として一番やりがいを感じるところはどんなところですか？

自分にしかできない、作れない靴を作った時に達成感や満足感を感じます。

多くの人に靴の魅力を伝えるために、今の三澤さんが達成したい目標はありますか？

一部の雑誌や一部の分野の方々に知ってもらう存在ではなく、ある程度メジャーなり、より一般の人に知ってもらう、見てもらえるようなアート靴作品を作りたいです。

中学生・高校生に伝えるメッセージ

今の時代はたくさんの情報が入るので僕の頃とは違うが、中学生や高校生の時期の世界観は、学校の中、友達の中、そして、家族と家族絡みの狭い世界にいます。
世界をたくさん知らないままなので、わずかな職業しか知りません。
このような状況の中で、自分に合う職業や自分のやりたいことがないと悩む人もいると思います。世界には　無数の職業があるので、中学生や高校生のうちに見つからなくても、あまり悩まずにこれから探せばいいのです。
だからどんどん世界を広げて欲しいと思います。学校や家族から町に、次に、町から日本に、さらに、日本から世界に広げれば、必ず自分に合う職業が見つかります。その上、価値観が増えれば、自分に合う職業に就くことができて、自分で職業を生み出すこともできるようになると思います。僕のような職業で成り立っていることを励みに、いろいろなことが職業になると思って欲しいです。

～編集後記～

今回靴職人の三澤さんをインタビューして、靴職人になったきっかけ、そして、靴職人になるためにやってきた努力を聞き、困難やうまくいかない時に諦めない精神を学びました。独自の表現となる靴作りやアート靴製作を追い求め続ける精神、「独自の表現となる靴を作りたい」という初心を持ち続ける精神にも感動しました。その他、学んだことを　生徒に教え、靴作りの仲間を増やし、共に靴作りの楽しさを分かち合い、生徒を通して世界を広げていました。三澤さん自身が自分の人生を持って人を励まし、自分の体験を通して世界を広げる大切さを伝えていると私は感じました。

インタビュー終了後に、私が悩んでいたことを三澤さんに聞きました。「もし、自分の　したいことが親や周りの人に理解してもらえない時にどうすればいいですか？」すると、　三澤さんは次のように答えてくれました。「まず、親は一番身近な人なので、自分の親を説得できなければ、周りや世の中の人を説得するのは難しいと思います。少し考えが固い親の場合は、ただわがままにこれをやりたいというのではなく、自分の行動で自分は　　できると証明してください。行動が大事です。」

目白大学　外国語学部　中国語学科３年　林　芷婷　取材日：2019/09/03